
朝を目指して

塩分とりすぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
朝を指して

【Nコード】
N4147G

【作者名】
塩分とりすぎ

【あらすじ】
何もする事がなく、ただダラダラと時間を潰して日々を過ごしていた

一（前書き）

頑張つて書きます

何もする事がないというのはある意味で一番厳しい事で
病気なら布団に入ってずっと寝ていればいいかもしれないが
元気な体だとそうもいかないもんだ

雨も降っていないければ、風もない

こんな日にただボーっと家で過ごすのは何とももったいない気がした

まあ、そんな事を言ってもあの人の場合

雨が降っても傘がある

風が吹いても飛ばされる訳でもない

こんな感じだったから、基本的に家にはいない
朝は早くから出かけ、夜は遅くに帰ってきた

食事も外ですませるから、初めから彼の分の支度されてないし
風呂も一番最後に入った

家のもんは、みんなとくに寝ているので
帰宅した時はいつも電気もなく暗かった
ただ、どんなに遅く帰宅しても
飼っている犬だけは、いつも出迎えてくれるのだった

こんなだから、家のちゃんと顔を会わせるのは朝飯の時ぐらいだった
しかし、それも数十分程度の事でこれといった会話もない

たまに会話しても、二言目には

「今日は早く帰ってきなさい」と言われるのが分かっていたので

別に会話しなくても気にもせず、むしろそっちの方はよかった

ところで、毎日こんなに長い間出かけて何をしているのかと言うと別にこれといった事はなにもしてなかった

行くあてもなくブラブラと歩き

コンビニで立ち読みするだの

公園のベンチにただ座ってボーッとするだのといった感じでただ、ありあまる時間をダラダラと潰しているだけだった

趣味がないと、一日の時間がとても多く感じるものでさっさと次の日になれと、つい考えてしまう

傍から見れば贅沢な事ではあるが

あの人からすれば、忙しくて時間が足りないといっている人に自分の一日の時間を売ってしまいたい気持ちだった

なので、寝る時が最高の楽しみであり

早く夜になれ、夜になれと

夜を楽しみに生活していたも同然であった

それでも、夜は自然にくるもんで

今日も何とか寝る時間になった

朝になるとまた、時間を潰さなければならぬ
そう考えると、憂鬱になったが

今日の所はさっさと寝てしまう事にした

一（後書き）

ありがとうございました

二

ガタガタという音で目が覚めた
風で窓が揺れた音だ

気持ちのいい目覚めではなかったが
目が覚めたので仕方がない

このままもう一眠りしようかと思ったが
もう11時過ぎ

あまり寝すぎても体に悪いので、この辺で起きる事にした

いつものように、携帯電話を開いてみたが
やはり一通もメールは来ておらず
もうこれで、一週間になる

よくわからない勧誘メールや
迷惑メールさえ彼を見放したのか
そういったメールさえない

別に誰かから遊びの誘いなんかがないかと期待している訳ではない
ただ、なんとなく朝起きたら見てしまっただけだった

毎日、晴れた日も雨の日も
ずっと家で過ごしていたらする事がなくなるのも当然であり
そうなってくれば、今度はそのする事を外に期待するの
もまた当然であった

しかし、ずっと家でダラダラと過ごしてきたので
急に1人で外に行くという事が出来ない

外に行くためにはきつかけが必要だった
小さな事でも構わない

とにかく、体と外へと向かわすような
きつかけを待つしかなかった

とはいっても、こんな生活なので
ほとんど、人との交流がない
それで、そんなきつかけを期待しても
とても難しい事で、まず起こりえない

こんなダラダラとした生活でも
パソコンやテレビがあれば

ニュースや情報なんかは知ることが出来るので
誰かと会っても話題にする話は結構あった

しかし、誰にも会わないのだから
いくら話題があっても意味がない

やはり、今は話題よりも何よりも
とにかく、きつかけが必要だった

三

今日と昨日では、1日しか違いがないのに
今日はやけに日が長く感じた

とにかく、いつまでたっても外が暗くならない

外で遊んでいる人から見れば、ありがたい事かもしれないが
家でただ時間が潰れるのを待っているだけでは
とても迷惑な事だった

昨日ならとつくに暗くなっていた空も
まだまだ明るい

結局、この後30分以上も明るいままだった

昨日と今日の違いはたった1日

しかも、月も変わっておらず、昨日と同じ3月

それなのに、どうして一日でここまで差が出てしまうのだろうか・
・

不思議に思ったが
だからといって、どうする事もできないし
5分程度でその疑問も消えた

食事を済ませ、風呂に入り
自分の部屋へと戻ってきた頃にはもう真っ暗で
いつものように待っていた「夜」がやってきた

得にする事もなく、ベットに横になり

もう何度読んだかわからない漫画を読み始めたが
すぐに飽きてしまい

そのまま部屋の明かりを消した

ピカッ・・・ピカッ・・・

何かが光っている事にすぐに気が付いた

机の上の携帯電話が着信を知らせていた

もうずっと光ってない、あの着信を知らせる光が

今、確かに部屋の中の一定の間隔で照らしている

どうせいつもの下らないメールだと

相手にしなかったが

このままでは明るくて眠れないので

仕方なく、携帯を開いてみた

「明日お暇ですか？」

短く言葉ではあるが

自分へと向けられた確かな内容だった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4147g/>

朝を目指して

2011年10月5日20時25分発行